

かけはし

一小だより

No. 8 24・10・24

一っ子フェスティバルへの道のり

校長 大村 亨夫

「失敗したっていいじゃないか 人間だもの 相田みつを」この言葉を手術室の前に張ってはいけない。＜笑点＞で誰かが言っていました。

10月に入ってから、一っ子フェスティバル(学習発表会)に向けて、各学年、練習を続けてきました。これまでの学習の成果(国語や音楽や体育)を発表しようと本番に向けて熱がこもった練習でした。合唱の練習で音が合わずに泣きだしたとか、集団行動(6年)で、歩きながらの方向転換ができない等、楽屋裏である職員室から先生方のため息とあせりがひしひしと伝わってきました。けれど、こうした作品作りを通して、担任と子ども、あるいは子ども達同士の心がひとつになっていくのを、私はこれまで何度もみています。つまずいている時こそがんばり時。結果ではなく、そこまでの道のりをどのようにつくるか。どう乗り越えるか。学習発表会の価値はそこにあると私は考えています。「力を合わせよう。協力しよう。」と100回言うよりも、ひたすら練習するこの時期の1回から、みんなでつくり上げる大切さに子ども達は気付いていきます。はじめは失敗していたけど、できるようになってきたという実感を、子ども達に何とか持たせたいのです。

先日ノーベル医学生理学賞を受賞した山中伸弥・京都大教授の「ジャマナカ」の話は、記憶にとどめたいエピソードでした。

神戸大学医学部を卒業し、研修医になった山中さんが初めて手術をした時の話です。上手な医師なら10分ほどで終わる手術が、1時間たっても終わらない。「すまん」と患者に謝ったそうです。「とにかく手術が下手で、整形外科になるのをあきらめました。」とは本人

の弁。口の悪い先輩からは、邪魔ばかりで役立つ「ジャマナカ」と呼ばれていたとか。(すごい先輩がいるものですね)

手術がへた。不器用。彼は、医者ではなく基礎医学の研究者に転身します。この挫折が、iPS細胞(心臓や神経など体のさまざまな細胞になれる能力のある万能細胞)の作製につながっていったのです。

山中教授の受賞会見は「感謝」から始まりました。「多くの同僚、励ましてくれる友人が心の支えになり、助けてくれた。」

子ども達が毎日を過ごす小学校は、小さいけれど多くの体験ができる社会です。6歳から12歳の子ども達が出会う感動は、オリンピックやノーベル賞級の喜びに匹敵すると言っても過言ではありません。今回の一っ子フェスティバルを通して、山中教授のように、失敗から立ち上がったたり、励ましてくれる友人と出会う子ども達がたくさんでてくることを願っています。

今年度フェスティバルの始まりを告げた全校合唱は「たいせつなもの」という曲でした。大人になったぼくが昔を思い出しています。自分を励ましてくれた友、優しかった人がいたのに、その当時は「ありがとう」と言えなかった。大切なものがたくさんあったことに気づかない自分だった。でも、今君に逢えたら、がんばるぼくがいることを教えたい。という内容です。心にしみる歌声になりました。最後に「もう一度歌おう」と思わず声のでてしまいました。



最後にもう一度 「たいせつなもの」を合

学校のまど ~子ども達のがんばり~ みんなで協力し、つくりあげた一っ子フェス



全校合唱 「たいせつなもの」
心を一つに素晴らしいハーモニーでした



トランペット鼓隊「フィンランディア」
新曲披露でドキドキでした



1年「音楽発表 のはらうた」
ここまでできるようになりました



2年「群読 ないた赤おに」
心にしみ入る演技と群読でした



3年「イワンのたまご」
しっかり役になりきった3年生



4年「音楽で季節をめぐるう」
気持ちがかもった素敵な歌声と合奏



5年「四つの星の物語」
シナリオも道具も全部手作りです



6年「集団行動 整列・行進」
見せ場で会場から思わず「オオッ！」

10月28日（日）中部地区文化祭

学校よりトランペット鼓隊と4年生が合唱で参加します。ぜひ、聴きにきて下さい。

PTAバザーご協力ありがとうございました

今年度は25,300円の収益となりました。安全旗購入に使用させていただきます。

メール緊急連絡網への登録をお願いいたします

すでに半数以上のご家庭に登録いただきました。11月開始に向けてよろしくお願いいたします。

11月の主な予定

- 1日（木）創立記念式
- 5日（月）いのちの日
- 10日（土）ほほえみ（クラフト）
- 15日（木）学校研究発表会（2時間授業）
- 17日（土）登校日：めざみの里音楽祭
読書まつり ～12/3まで
- 19日（月）振替休業日（17日）
- 23日（金）勤労感謝の日（P整美部作業）